

のどかな風景が広がる
山江村の小径を歩こう!

山江 フットパス

自然あふれる山江村の魅力を探して
のんびり歩きましょう。
寄り道、みち草大歓迎。
村民との交流も楽しんでください。
いってらっしゃいませ!

フットパスとは

イギリスが発祥の、森林や田園地帯、古い町並みなど、それぞれの地域に残された「ありのままの風景」を楽しみながら歩く(foot)ことができる小径(path)のこと。のんびりとその地域を散策できることから、日本でも広く浸透しつつあり、各所でフットパスコースが設けられています。

フットパスのルール

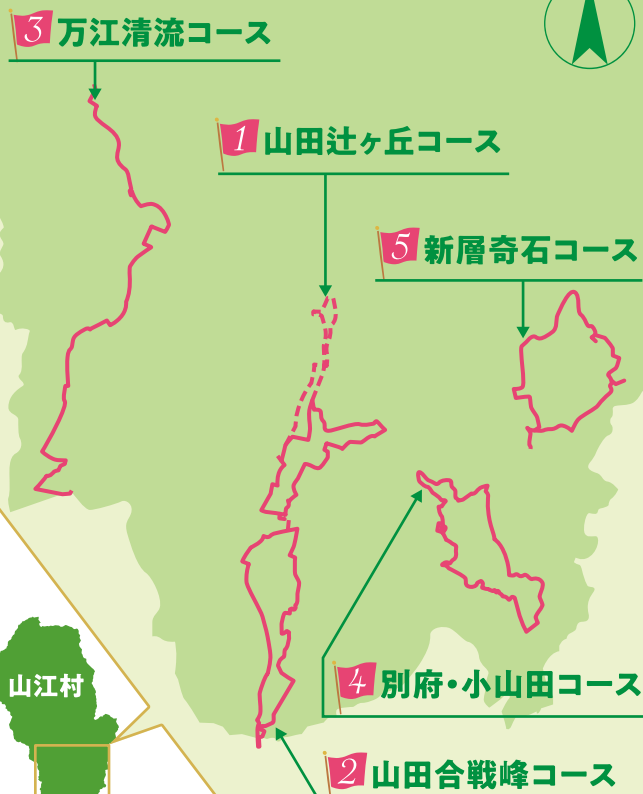
フリーで歩くときのけがやトラブルについては自己責任となります。
十分に気をつけてフットパスを楽しみましょう。

1. ゴミはきちんと持ち帰る。
2. 動植物、その他田畑に植えられた作物や植物の採取はしない。
3. コース上の家畜を脅かしたり、作物を荒らしたりしないこと。
4. 火災防止のため、火気の取り扱いには細心の注意を払うこと。
5. 地域住民の生活にとって迷惑となるような行為はしないこと。
6. 季節によってはハチやヘビなどに遭遇することもあり、気象条件の変化や野生生物に十分注意すること。

アイコンの説明

- 基本コース
- ビューポイント
- トイレ
- 寄り道コース
- 目印看板
- 駐車場
- 公民館
- ※コース上目印となるリボン
- を配置しています。

コース一覧



3 山の風 川のせせらぎを感じる 万江清流コース

全長/約6km 所要時間/約100分

コース紹介

球磨川の支流である万江川沿いを南下するコース。澄んだ水色が美しい万江川は村の宝。春は山桜、夏は新緑、秋は紅葉が彩りを添える。安産や腰から下の病に御利益がある「淡島神社」をスタートし、コース中盤には享保13(1728)年創建の「万江阿蘇神社」を参拝。ゴールは天然温泉が評判の「山江温泉ほたる」。

コース順路

山江村役場をボンネットバスに乗ってスタート地点まで。万江川を挟んだ対岸にある淡島神社へ参拝。スタート地点に戻り、川沿いの県道17号をしばらく進む。2つ目の公民館手前を、目印看板に従い左に入ると筆観音へ。そこから右折し、県道へ戻り右方向に進む。神園橋の手前を右に入り、しばらく道なりに進むと右手に万江阿蘇神社。さらに直進し、未舗装道との分岐点を左折。直進し県道を渡るとゴールの山江温泉ほたるへ。

アドバイス・注意点

- ・コース内のトイレは淡島神社と万江阿蘇神社そばの2カ所。
- ・川沿いの藪には、蛇がいる可能性があるためむやみに入らないこと。
- ・足元が悪いポイントもあるので滑らないよう十分注意を。
- ・県道を歩くことが多いので交通ルールを守り十分注意を。
- ・山江温泉ほたるに集合し、ここからボンネットバスでコースの出発場所へ移動するので、必ず時間厳守で。

コースマップ



チェックポイント

A 淡島神社 WC
安産や子宝の神様。小さな鳥居をくぐると腰から下の病に効くといわれる。ウメと産めをかけた「安産梅ぼし」は昔ながらの味も評判。

B 筆観音(柳野観音)
左手に筆を握った観音様を祀ったお堂。洪水で柳野地区の川岸に流れ着いたと伝えられる。宇の上達や学問に御利益あり。

C 万江阿蘇神社 WC
享保13年(1728)に旧万江村領主の万江氏が建立。境内の銀杏も同時期のもの。秋の黄葉もひときわ美しく趣のある社に彩りを添える。

1 栗林を抜け、田園風景を一望する 山田辻ヶ丘コース

全長/約4.5km 所要時間/約100分

コース紹介

山江村役場をスタートし村の北側をめぐるコース。石造りの麻窯跡や石臼を使った堀などが趣深い集落を周遊。コース内には国指定重要文化財「山田大王神社」や建久9(1198)年以前に創建の「高寺院」など歴史遺産も点在。やま栗の栗林や田園風景も見どころ。

コース順路

山江村役場のバス車をスタート。すぐそばの山江村民俗資料館を過ぎ、旧村長邸から左へ。民家の脇を抜け、麻窯跡を通過し左へ入り中学校グラウンド横を通り左折。路地を進み山江保育園の角を右に曲がり坂を下って左折。田園風景を左手に見ながら道なりに進む。浄専院智山堂の角を左折し、上り坂へ入り突き当たりを右へ。栗林を抜け村道に出たら右折、看板に従い畦道に入る。集落を進むと村道右手に諏訪神社、左手には石原橋。橋を渡り川沿いを歩き、再度橋を渡って村道に戻り、左へ進むと右手に山田大王神社。そこを通過し、高寺院の看板がある四つ角を左折するとゴールの村役場。

アドバイス・注意点

- ・コース内のトイレは山田大王神社前の1カ所のみ。
- ・一般道を歩くことが多いので交通ルールを守り十分注意を。
- ・水辺のそばや蜂の巣箱がある民家の近くを通るので十分注意を。
- ・コース内に自動販売機がないので飲物は各自持参を。

コースマップ



チェックポイント



A 古代の杜 WC P
「生きた化石」といわれるメタセコイアの化石や、石造眼鏡橋「森下橋」などの歴史的な文化財が大自然とともに豊かな景観を描く。



B 諏訪神社
刃物の神様を祀った神社。村道から入った小高い杉林のなかにあり、苔むした参道にも社の建つ境内にも静かな時間が流れている。



C 山田大王神社 WC
山田村の地頭であった平河氏を祀る神社。印象的な茅葺き屋根の本殿は天文15年、拝殿・神供所は宝暦11年に建立。国指定重要文化財。



D 高寺院
人吉球磨で最古の寺院。この地を統治した相良氏によって滅ばされた矢瀬氏による草創。別棟の収蔵庫には国指定重要文化物の毘沙門天立像2体が安置されている。

4 “石倉”や高台からの眺めを楽しめる 別府・小山田コース

全長/約6km 所要時間/約120分

コース紹介

山江村の山間部にある林道を歩くアップダウンのあるコース。木々に包まれた森、山あいに広がる田園、石倉のある集落など、目の前の景色が次々と変わり変化に富んでいる。石倉の集落は麻の加工に使った麻窯跡や、重厚感ある石造りの倉、白壁の倉などが随所にありどこを撮っても絵になる風景。カメラ片手に散策を。

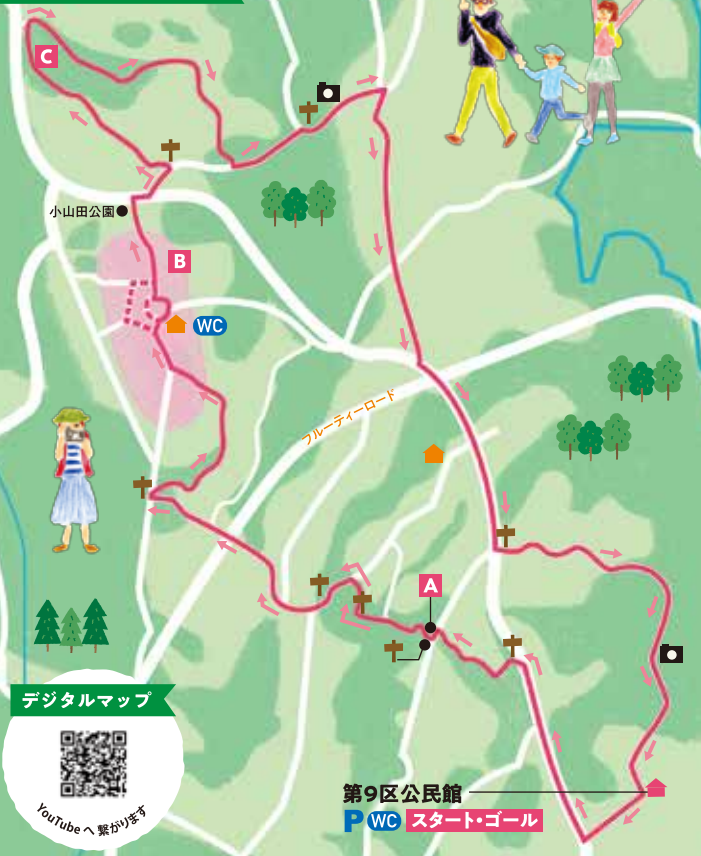
コース順路

第9区公民館をスタートし右折、村道をしばらく進み目印看板を左へ。麻窯跡や民家の脇を抜け看板に従って進む。フルーティロードを横断し直進、突き当たりの看板から右に入ると小山田公民館界隈の石倉スポットへ。集落を抜け小山田公園脇を通過し、村道を渡ったら左へ、道なりに進むと左手に息吹きさんの祠、看板に従い坂を下りきつて右折し、上り坂の林道を抜け右へ進むと開けた場所へ。看板に従いフルーティロードを渡り直進。さらに看板のある分岐点を左折し、猪の檻を右手に見て林道へ。木立の先にゴールの第9区公民館。

アドバイス・注意点

- ・コース内のトイレはスタート地点と小山田地区公民館の2カ所。
- ・交通量の多い一般道を横断することがあるので交通ルールを守り十分注意を。
- ・民家数多い石倉を見学する際は、住民の方にご迷惑にならないように。
- ・コース内にある猪の檻では、手を出したり食べ物を与えたりしないように。
- ・コース内に自動販売機がないので飲物は各自持参を。

コースマップ



チェックポイント

A 麻窯跡
昭和の初頭まで村の主要産物であった麻。加工の際はこの麻を煮ていたのが石造りの窯。窯跡には麻をつって干した木が今も残っている。



B 石倉スポット
小山田公民館の周辺はさまざまな石倉が点在する散策スポット。重厚感溢れる石倉や白壁の倉などが小路のあちこちらに趣のある佇まいを見せる。民家が所有する石倉には家々の家紋が配されている。

C 息吹きさん

江戸中期、喘息を患い諸国巡礼の道中この地で絶命した旅人を、住人たちが手厚く葬った場所。喘息など咳に関する病に効くと伝えられる。

2 山江の歴史や昔ながらの暮らしを感じる 山田合戦峰コース

全長/約5.5km 所要時間/約110分

コース紹介

山江村役場をスタートし村の西側をめぐるコース。木々に包まれた苔むした旧道や、野鳥が飛来する山田川の畔をたどる。コース序盤には戦前の石文化の名残をとどめた石原の家の屋敷や、井戸のある民家が立ち並ぶ集落を歩く。「合戦峰観音」では勝負の神様に祈願を。

コース順路

山江村役場のバス車をスタート。県道162号を南へ進み、左手山側の旧道に入る。木の車輪かけた納家や民家が立ち並ぶ集落を抜け、目印看板を右に入ると左手奥に増大寺跡のポイント。そこを通過し一端県道へ降り、再度集落へ坂を上る。道なりに進み突き当たりを左へ、陸橋を渡り公民館を過ぎ集落の先に山田合戦峰観音。階段を降り県道を渡りもと来た方向に少し戻ると大きな栗が乗った看板。脇の細い道を下り山田川沿いへ出たら右へ。高速道路をくぐると野鳥観察のポイント。田園地帯を上流方向へ進み橋を渡ると鯉のエサやり場。さらに川沿いを進むと左手にゴールの村役場。

アドバイス・注意点

- ・コース内のトイレは合戦峰観音の1カ所のみ。
- ・合戦峰観音から県道側に降りる時、急な階段に注意を。また県道を渡る際は必ず横断歩道を渡ること。
- ・コース内に自動販売機がないので飲物は各自持参を。

コースマップ



チェックポイント



A 増大寺跡
かつての寺跡で近くに六地藏と五輪塔群のみが現存している。小高い丘の上にあり眼下には山田川やのどかな田園風景が広がる。



C 野鳥観察
川の東西に森が広がり、民家から離れた場所にあるこのスポットは野鳥たちのオアシス。川面に遊ぶ鳥たちをじっくりと観察できる。



B 合戦峰観音堂 WC
相良三十三観音12番札所。村を一望する見晴らしの良い高台にある。ベンチやトイレも備えおすめの休憩ポイント。勝負事に御利益あり。



D 飛び石・鯉のエサ場
川にせり出すように造られた鯉のエサ場ではエサを無人販売。上流には岸辺近くに飛び石が設置され鯉が泳ぐ姿を間近で鑑賞できる。

5 地域の平穏をひっそりと見守る「奇石」を探そう 新層奇石コース

全長/約5km 所要時間/約120分

コース紹介

地鶏ファーム自然の里をスタート、ゴール地点とするコース。野鳥がさえずる静かな山道を歩きながら、亀、蛙、牛の形をした3つの「奇石」をたどる。「奇石」が鎮座する場所は不思議な力や御利益があると云われる村のパワースポット。いずれも地域の守り神と称され、小字名にも亀、蛙、牛の文字が使われている。また、コース内には晴天の日には周辺の山々を一望するビューポイントも。

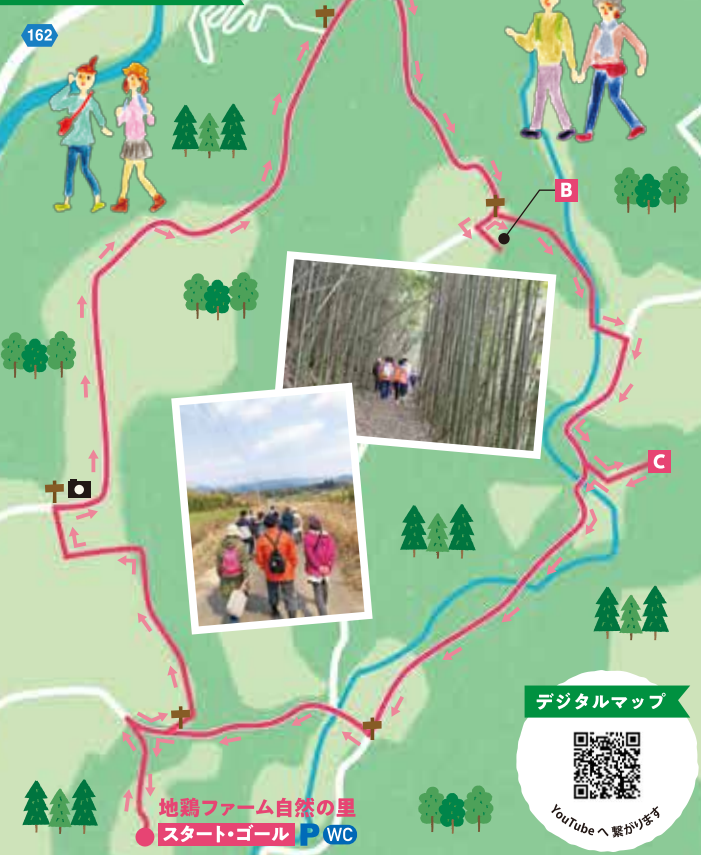
コース順路

地鶏ファーム自然の里をスタートし、突き当たりを右折。1つ目の分岐点を左折し、田園地帯を抜けて道なりに進む。杉木立や雑木林を抜けて進むと左手に目印看板。脇道に入った先、やや小高い場所に墓石。元の道に戻りしばらく進むと右手に目印看板。看板に従い脇道を入ると2つめの奇石、鼻操石。元の道をさらに進み、左右に分かれた道を左に入ると亀石へ。分岐点に戻り進行方向の右へ進む。看板のある分岐点を右折、直進しゴールの地鶏ファーム自然の里へ。

アドバイス・注意点

- ・コース内のトイレはスタート地点の地鶏ファーム自然の里1カ所のみ。
- ・一般道を歩く際は交通ルールを守り十分注意を。
- ・蛇や猪などの生き物に十分注意を。
- ・コース内に自動販売機がないので飲物は各自持参を。

コースマップ



チェックポイント



A 亀石
わくずとはこの地方の方言で蛙の意。この石が上向きに座った蛙のように見えることが名の由来。子宝・繁栄・豊饒などに御利益あり。



B 鼻操石
鼻操とは牛の鼻輪のこと。二つの穴が貫通した石が牛の鼻に似ていたためこの名に。古くから神の使いと云われてきた牛にあやかり、この石にも神さまの御利益が。

C 亀石
甲羅の様子が通貨に似ていることから金運の縁起物とされている亀。亀の甲羅に似たこの石を撫でると金運・長寿・来福などに御利益あり。

スタート・ゴール

地鶏ファーム自然の里 WC P
山道を抜けた先、開けた丘陵地にぽつんと建つ地鶏屋。木々の緑に囲まれた店舗は豊敷きのビニールハウス。自然の中で店主が育てた地鶏や無農薬野菜を炭火で焼きながら味わえる。朝採れ卵の大卵焼きや卵かけご飯も絶品。

